



シスター
さんと
聖り
むす

ミスター
さんと
聖
さま

●この本でえっちなことをしたりしなかったりする人たち●

●アリア(シスターさん)●

とある街のとある教会のシスターさん。
自分に恋心を寄せる少年(ルカ君)を見習い修道女として教会に招き入れ、
日々おねショタライフを満喫している。

ある日、聖女さまが自分の名前をつぶやきながら
オナニーしている現場を目撃してしまい、
それに対して嬉しく思っていることに困惑している。

聖女さまとは幼馴染のような関係でもある。

教会のシスターとしては実はかなり高位で、
聖女さまのお付きでもあることから、将来ティナが大きな教会に
移り住んでも、自分もついていくつもりでいる。



●ティナ(聖女さま)●

世界に同時代内に数人しかいないと言われる聖女さま。
神様の力を借りて癒しや浄化、大地に豊穡の加護を
与えたりできる。

ある日、幼馴染兼お付きのシスターのアリアが
ルカ君とえっちなことをしていることに気づいたのをきっかけに、
アリアのことが恋という意味で好きだということを自覚する。

さりとして想いを伝える勇気もなく、
毎日オナニーして自分の気持ちに蓋をしようとしている……が、
あまり抑えきれではない模様。

聖女としてはまだ見習いのような立場で、
街の教会で修行を積んだ後はいずれもっと大きな教会に
移り住むことになっている。



●ルカ(見習い修道女♂)●

アリアのことが好きで、ある日告解室で本人に想いを告げたところ、
受け入れられ、それ以降性的な関係となる。
恋人関係かと言われるとなんか違う、とお互いに思っている。

少しでも長くアリアの傍にいたいという想いから、
アリアの薦め(工作?)で見習い修道女になった。

アリアから女の子扱いされることに最初は抵抗があったが、
今では、それはもう。



●クロエ(見習い修道女♀)●

実は以前からいた見習い修道女。
ルカよりもひとつだけ年上なので、ルカのことを妹のように思っている。

アリアのようなシスターになりたいと日々励んでいる。

聖女さまとは結構仲が良くて、たまに二人で話したりしている。



豊穰の祈りを神様に
捧げ、それに応える
天からの御力を
大地に注ぐ

天にまします
我らの父よ

月に一度という頻度で
行われるその儀式は、
聖女さまのお仕事の中でも
最も重要なものだと言える

我らの行く途に
幸を、糧を、聖龍を

其の旅の果て、祈りのもとに
父の孝愛を賜れますよう



わー！
聖女さま
とっても綺麗！

ダメですよ
クロエ

聖女さまの大事な
儀式の最中なのでから
静かにしましょうね

この儀式のおかげで
人々は豊かに暮らしていける
……そんな大事な仕事の
最中だというのに――

……

今朝方、脱衣所の
洗濯物カゴの前で何やら
ごそごそしてる
聖女さまを見てしまった
というか……



あの子が今はいてる
ぱんつ……
私が昨日はいてた
ぱんつなんですよね……



あ……やっぱり……
バシてた……？

言い訳は要りません。
怒られてしつかり反省する
心の準備だけしておいて
下さいね？



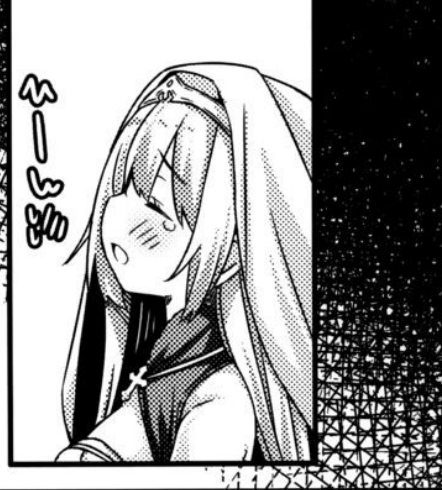
……ティナ様？
私が怒ってるの、ちゃんと
気づいてますよね？

儀式が終わったら
お部屋に行きますから
逃げちゃダメですよ……？



わかり
ましたあーっ！





わーん

あれ...どうしたんだろ
なんか聖女さまいきなり
かっこわるくなっちゃった

どうしたん
でしょうねえ



もっとしっかりお祈り
しなさいって神様に怒られた
のかもしれないね

?



ごめんなさい...
でも...

儀式中
だからです

人様の下着を勝手にはいて
儀式に臨むだなんて
私だけでなく神様に対しても
不誠実でしょう?

儀式中にあんな庄
けなくともいいじゃん...

うーん

ちよん

着かえた。

それは……でもちゃんと
儀式は成功したし……
神様も何も言わなかったし……

アリアの下着って前から
可愛いなーって
思ってたから……

これ着けて儀式やったら
気分も上がっていつもより
うまくやれる気が……

そゆ

そゆ

!?やっ

やっ

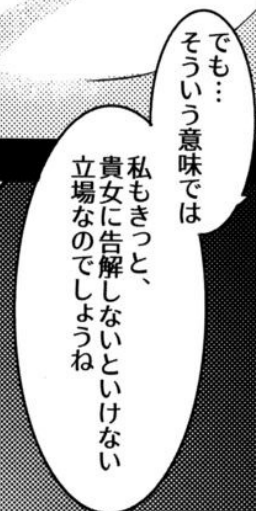
…ティナ!

言い訳で赦される罪など
無いと、貴女が一番理解して
いないといけない立場でしょう?

ゆっ!

罪を自覚しているなら
まずは正直に告解なさい!

ひん……



私は…たぶん
貴女が思っているより卑しくて
強欲な女なのだと思います

…あの日、この子の
痴態を見たときから
ずっとお腹の奥が
熱くてたまらない

シスターとして
あるまじきことだとは
思いますが

アリア…?

ルカ君の気持ちに応えて
おきながら、貴女の気持ちを
嬉しく思ってしまった

…一度だけ、
試してみませんか？

お互いにとって…
この気持ちが本物なのかどうか、
今日この日の一度だけ

この熱が
ルカ君を抱いているときに
感じているものと同じなのか…
それともまったく別の何かなのか

…うん

きっと…試すまでもなく
私の気持ちは

アキ

アキ

アキ

…そう、試すまでも
ないのです…
私がどうしようもなく
愛に飢えた女だという
ことは明白なのですから

あぁ、神様……
欲深く、穢れたこの手で
貴方の御子に触れる
ことをお赦し下さい

ん……

そうですか？
まあテイナよりは
経験豊富ですからね

…っ
アリア…っ

触り方、
上手すぎ…っ

そう…
なんだ…？

あの子ともこんなふう
してる…の？

どうでしょうか……？
でも男の子と女の子では
全然違いますからね

はっ

みゃあっ！

ひんっ

かっ



自分以外の女の子の
身体……とつても
柔らかくて、甘くて……

余計なお喋りは
不要ですよ？
気持ちよくなることに
集中しましょうね……♡

触れたら触れたぶんだけ
返ってくる子猫が鳴く
ような可愛い声

ああ……込み上げる
背徳感と愛おしさで頭が
どうにかなりそう

あらあら♡
こんなにおっぱいに夢中になつて、当代聖女さまは
とっても甘えん坊ですな♡

子供っぽいところが
この子の可愛いところだと
思っていたけれど

毎日聖女のお勤め頑張つて、
幼馴染のシスターの指で
おまた気持ちよくなつて
とっても偉いですね♡

赤ちゃん扱いされるのが
こんなにも似合いすぎてると…
これはこれでまた別の
感情が込み上げてくるような♡



まったく…この後
誰がお部屋の掃除を
すると
思っているんですか？

ココも綺麗にしますから
そのままじつとしていて
くださいね…？

ティナの
おしっこと愛液が
混ざり合った
味と匂い……

こんなもので鼻と喉の奥を
満たされたら……
もう、我慢なんて……♡



ん…

にゃ…

ん…

ん…

ん…

アリア
するいっ…

はっ

はっ

さっきからずっと
私にばかり…!

あら…
それは奇遇ですね…♡

ドキ

は

は

ドキ

ドキ

トコロ

私もずっとティナばかり
気持ちよくなって、するいと
思っていたところなんです…♡

っ

ギン

ギン

ギン

女の子同士の
セックス……
ただ二人で気持ちよく
なるための行為

あ……

あ……

ん……

ん……

ん……

ん……

ん……

ん……

ん……

ん……

同じ色と味のジュースを
混ぜ合わせるような
不毛極まりない行為の
なすの……なのになの……

おおっ

ん……

ん……

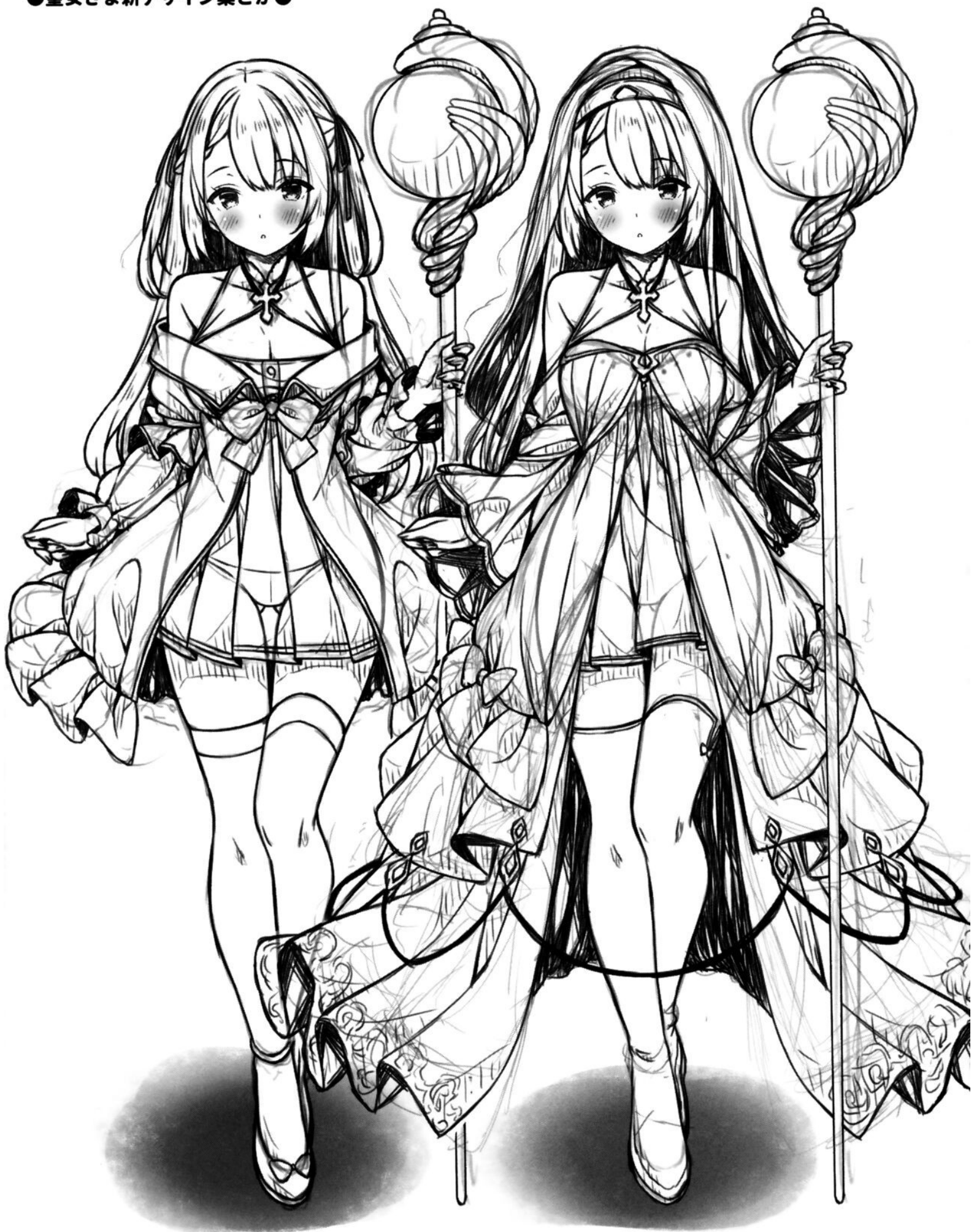
ん……

ん……

ん……







●以前のデザインは、先にカラーイラストでノリと勢いで描いたものをそのまま採用していたので、
思い切ってデザインを大幅に変えてみました。
そのうち私服や、見習いの子たちの服も考えたいですね……。

たぶんこの本と同時に出版しているアクスタ絵のラフとか。
夏なので安易な発想で水着聖女さまを描いてみました。
ちゃんと出せてたら……いいな……(入稿前の心境)



●あとかきとか●

なんなんだこの教会、乱れすぎだろ教えはどうなってんだ(呆れ)

聖職者さんシリーズ四作目となります、こんばんは。

改めて性の本能に忠実な聖職者(笑)しか登場しないことにビビり散らかしておりますが、まあ……18禁の薄い本なので。

そんなことは今更気にしてもしょうがないことは分かってはいても、やっぱりどうかしてるぜこいつら、っていう。

今回はシスターさんと聖女さまがとうとう……というお話となりました。

一応、今回のお話を考えるにあたってラストまでのおおまかな筋道を立てていたりします。

予定通りにいけば、あと2冊で一区切りになると思います。

この子たちの関係を表すなら、アリアを中心にした三角関係になると思うのですが。

やっぱりそれぞれの気持ちに、はっきりとした着地点を設けないと綺麗には終われないなと思ったので。

今回から締め始めて、あと二冊でちゃんと収まればいいな、という希望的観測を抱きつつ……。

とはいえ三角関係だからどろどろさせたい、という考えはまったくなく。

基本的にはおねショタだガチ百合だヒャッハー、な感じで気軽に楽しんでいただければと思いますし、自分もそんなノリで描いていくつもりなのでよろしくお願い致します。

今回の「これってシスターさんの浮気じゃね……？」と思わなくもないですが……。

おねショタと百合は両立できるんじゃないか、という考えを述べつつ、お茶を濁したいと思います。

アリアとティナの関係性を深堀りというか、過去のエピソードとかを補完したさはあるのですが……。

今回は締め切りの都合で諦めたのですが、SSを書いて載せたいと考えていたりしました。

次巻以降か、もしくは自サイトかFANBOXあたりに載せてもいいかなーと思わなくも。

何らかの形でお届けできれば、と思っております。

今考えているのが、アリアとティナの出会いのお話で、

特に何かあったというよりは出会った前後の二人の心情を書き綴りたいので、

漫画というよりは断然小説向けなんですよ。

漫画向けのエピソードが思い浮かんだら、それはそれで何らかの機会に形にしたいとは思いますが……。

そんな感じで。

思えば結構長く同人活動やってきましたが、初めての試みに挑戦してみたので。

次回への引きというか。

そんなようなものを最後にお届けします。

ちゃんと本当に最後までお話考えてあるんですよアピールとも言います(正直者)

それではまた冬に(受かっていれば)お会いできれば幸いです。

2023年7月某日 RYO





クロエ、
聖女さまのお部屋の前で
何して

……？
そこにいるの、クロエ？

は。

は。



……っ……
ルカ、ちゃん……？

聖女さまのお部屋で……
アリアさまと……聖女さまが……

見てたら……わたし……
なんだか……

わん……

は

は

は

ミスター
さんと 聖女
さま

2023年8月13日 発行
印刷会社：PICO様
発行：没後
著者：RYO

URL: <http://www.vesta.dti.ne.jp/~mayaul/>
MAIL: ryo5120@gmail.com

おなかの奥が……あつくて……

本書の複製・複写・インターネットへのアップロード等を固く禁じます
乱丁・落丁本はお手敷ですが上記の連絡先までご連絡下さい

シスター

さんと

聖ち

さま

"Pontsu" FANBOOK EX-28.3

2023:summer

BOTUGO R-Side

R90 Presents

FOR ADULT ONLY